



肥育牛のエサは、大きく分けて
粗飼料（牧草や稲わら）と
配合飼料（穀物などを中心に栄養バランスを考えたもの）です。

肉牛と乳牛の違い

「肉牛」は、おいしいお肉になるために、体のしっかりとした牛に育てます。「乳牛」は、丈夫な子牛を産んでたくさんの牛乳を出してもらえように育てます。目的が違つので、エサもそれぞれの牛に適したものを与えます。畜産農家は、牛が健康でエサをしっかりと食べてくれるように、さまざまな努力をしています。畜舎の環境を整え、栄養のバランスがとれたエサを与え、牛の健康を考え飼育しています。

※肉牛のエサは「肉の質を上げる」ために、エネルギー源や肉の形成に必要なタンパク質などを重視した高カロリーな配合の飼料が与えられます。

※「肉牛」は食肉用に飼育される牛の総称であり、子牛を購入して大きく太らせるまでの過程で育てられる牛を「肥育牛（ひいくぎゅう）」と呼びます。

枝肉共励会

肉の品質を競う共励会で、肉質と生産性の向上を図るために行っています。JA菊池では全体の共励会を毎年1回行い、他の生産者の枝肉を見て、飼養管理の参考にしたりします。

※枝肉共励会の評価は、歩留等級（A〜C）と、肉質等級（1〜5）に分けられて評価され格付けされます。（日本食肉格付協会が定めている規格）

※歩留まりとは簡単に言えば「可食部の割合」です。枝肉の重量が何割かを調べ、その割合が多いほど食べられる部分が多いことを示唆しています。ちなみに、Aのランクは歩留基準値72以上なので、枝肉重量の72%が可食部であることを指しています。

